

これまでと趣が少し変わって、電  
車待つ大学生の写真が巻頭を飾っ  
ています。夏の日差しの中で、さわ  
やかな笑顔が弾けます。函館では、  
このような光景を目にすることが当  
たり前の日常でした。



◇巻頭言◇

## 夕陽会の時計を止めずに

夕陽会会長 藤川 隆

(昭和48年卒)

例年であれば、四月から各支部の  
総会や歓迎会などが行われ始め、六  
月には本部総会・大懇親会を盛大に  
開催していました。このことを、長  
い間、当たり前のように続けてきた  
のが夕陽会です。特に、夕陽讃歌の

大合唱が始まり、杯を交わしながら  
楽しく語り、締め酌の賛歌で同窓の絆  
を確かめ合う懇親会は、夕陽会が長  
い歴史の中で大切にしてきた「宝」  
の一つです。

新型コロナウイルス感染拡大を予  
防する新しい生活様式が示され、人  
との距離は二メートル（最低一メー  
トル）空けることが求められていま  
す。このソーシャル・ディスタンス  
の確保は、感染予防のために重要で  
あることは十分に理解できますが、



「青柳町」電停

第229号

そのことが人と人との心理的距離ま  
でも大きくしてしまうのではないかと  
危惧しています。

新型コロナウイルスの収束には、長い時間  
が必要であると言われています。し  
ばらくは、今まで通りに同窓が「集  
う」ことは難しいでしょう。しかし、  
新型コロナウイルスを理由に、夕陽会の時計  
を止めたくはありません。懇親会の  
場ではなくとも、電話やメールなど  
で「語り合う」「つながり合う」こ  
とができるのです。

各支部におきましても、会員相互  
の親睦が図られるよう、新たな発想  
や工夫で活動を重ね続けてほしいも  
のです。そのことが、若手会員の活  
躍を促し、令和時代の新しい夕陽会  
をつくる契機にもなると考えます。

本部においても、ホームページや  
フェイスブック、オンラインによる  
情報交流などによって、支部や会員  
とのつながりが一層深まるよう努め  
てまいります。会員各位には、ご理  
解とご協力を賜りますようお願いし  
上げます。

幹事後報告となりますが、六月二十  
七日に開催を予定していました本部  
総会を中止いたしました。本来であ  
れば、全会員に総会議案書を送付し  
て書面決議を行うべきではありまし  
たが、九月十二日に開催しました全  
国支部長会議の議決をもって、総会  
の議決とすることをご了承願います。  
全国支部長会議の詳細につきましては  
は、本号に掲載しております。ご意  
見やご要望などがありましたら、お  
気軽に本部事務局にお寄せください。

## コロナ禍における夕陽会の在り方

## 令和2年度 全国支部長会議

◆ 新型コロナウイルス感染症の影響

により、本年度の本部総会は、残念ながら中止となりました。そのため、特別の措置として、全国支部長会議の議決をもって総会の議決とする」ととし、令和二年九月十二日（土）

ホテル函館ロイヤルにおいて全国支部長会議が開催されました。なお、宗谷、留萌、帯広十勝支部は、オンラインでの参加となりました。

審議に先立つ挨拶の中で藤川会長は「六月の総会、懇親会の中止決定



藤川会長挨拶

後から、自分の中の夕陽会の時計は止まったままの状態であった。コロナ禍の状況の中とはいえ、『このまま夕陽会の時計を止めてはならない。』との思いが日々強まっている。」と述べられました。

議長に天野副会長と伊藤副会長が選出され議事が進行しました。

報告事項では、まずは、藤川会長より母校函館校の動向として令和二年三月末の卒業・修了生の進路状況と、昨年度から始めた学生表彰を二団体・一個人へ授与したことが報告されました。次に、白川幹事長より令和元年度の会務・事業報告が述べられ、続いて新谷財政部長から、令和元年度の通常会計と基本金会計の決算報告が行われました。続く監査報告で門脇監査から、すべて適正に処理されている旨の報告がありました。

協議事項では、はじめに白川幹事長より令和二年度の運営方針並びに推進事項・事業計画が提案され、令和二年度は、基本的に前年度方針を踏襲・継続するとともに、このコロナ禍において同窓会の意義やあり方を改めて見つめ直していくことが提

案されました。このことを受けての本年度の重点推進事項は次の\*のとおりです。

## ① 組織強化と運営の効率化

\* 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携  
\* 会社員・公務員会員の組織化の推進

## ② 人材の育成

\* 民間企業・地方公共団体に勤める若手会員の中核となる人材の育成

## ③ 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

\* 専門部、諸業務、諸事業の見直しと再構築

## ④ 研究・研修、文化事業の奨励

\* 活動制限が予想されるため重点事項無し

## ⑤ 母校への支援と地域への貢献

\* 学生に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の工夫

## ⑥ 夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・活用

\* 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整理

続いて白川幹事長より財政基盤の中・長期的な見直しとして、管理職の特別寄付金などの改定が次のように提案されました。

◎細則2基本金の運用に関する規定



オンライン参加

第2条2項に定められている基本金造成のための「校長並びに教頭昇任寄付金」を削除する。

▽財政基盤を強固にするため、長年にわたって協力をお願いしてきたが、現在は基本金から生じる益金が極めて少額になっていること、今後は会社員・公務員の会員が増加することなどを見据えて改定する。周年行事や本会の運営において緊急に経費が必要になった場合は、全会員を対象にした寄付などを検討する。

◎管理職会員に毎年、協力をお願いしてきた特別寄付金を半額とする。▽本来は、通常会費をもって会運営

を行わなければならないが、現在の事業内容では、特別寄付がなければ会運営が難しい。当面は、特別寄付を半額として引き続き協力をお願いしながら、事業内容を抜本的に見直し、通常会費による会運営の在り方を検討する。

また、新谷財政部長より令和二年度の会計予算案が提案されました。次に、藤川会長より役員改選について①本年度は、総会を実施できなかったことから、基本的には、令和元年度の役員体制を継続する。②令和二年度は、役員改選期であったが、令和元年度の役員を継続としたため、改選期を令和三年度に移行する。との提案がありました。さらに、太田庶務部長より令和二年度以降の総会運営の議長・議事録署名人、役員選考委員について、次年度以降に順次スライドすることが提案され、最後に令和三年度の全国支部長会議、本部総会の期日が提案されました。

報告事項と協議事項はいずれも満場の拍手をもって承認されました。

続いて、連絡・依頼事項として、白川幹事長より、昨年十月に行われた第一回令和の夕陽会を考える会の様子についての報告があり、今後、令和二年十月に第二回会議を実施し「組織・会費・名簿・事業」の四観

点にかかわる内容について検討するとともに、各支部を対象としたアンケート調査を実施する予定であることが報告されました。

さらに、報告・交流として各専門部部长からの提案や依頼事項の報告がなされました。その後、各支部から現状報告が行われ、本年度は、どの支部も総会を実施できていないこと、会員減少が共通する課題であること、他業種の会員の調査・発掘、若手教員の育成、後継者対策など、それぞれの実態に応じて課題解決のために工夫して活動していることが交流されました。

(平成14年修 情宣部員 坂井顕也 記)



各支部からの報告

## 「会員名簿」の業者委託について

### ☆会員名簿発行までの予定

昨年度、令和元年度の総会にて決定いたしました会員名簿作成の業者委託につきまして本契約が完了し、データ確認等の作業が始まりました。委託業者は(株)サラト(本社・姫路市)であり、同社は全国で様々な名簿の作成を請け負っている会社です。函館市内でも同社に委託している高校、中学校がいくつもあります。先日開催されました本部役員会議、全国支部長会議においても説明を行いご承認を得たところです。

これまでの名簿作成とは異なり、前納会員の皆様には確認の手紙が来

年三月の会報に同封されて届きますので、内容を確認し、返送葉書に記入の上ご返送をお願いいたします。

また、名簿の大きさも一回り大きなA4版になります。記載内容はこれまでどおりです。

各期代表・名簿作成者の皆様並びに各支部による確認作業は、これまでどおり行わせていただく予定です。時期がまいりましたらご案内をいたしますので、名簿確認作業へのお力添えをお願い申し上げます。

☆前納会員への確認の手紙

時期 (令和三年三月)  
(会報二三〇号に同封します)  
内容 ①名簿記載事項の正誤確認  
②会員名簿の送付必要の有無  
※返送用葉書に記入後、投函願います。  
※名簿不要にチェックされた皆様には、今後、名簿は送付しません。

○次号発行予定 令和三年十二月  
○前納会員、現役会員には、これまでどおり無償でお届けします。

20 発行スケジュール  
令和二年 業者による名簿データの作成

・令和三年二月 名簿委員確認作業 (令和三年五月まで)

・令和三年三月 前納会員確認手紙 (会報二三〇号に同封)

・令和三年四月 各支部確認作業 (令和三年五月まで)

・令和三年六月 業者名簿作成作業

・令和三年十二月 名簿発行

・令和四年一月 前納会員・各支部に送付

○住所変更や入会・計報等の連絡は、これまでどおり本部事務局にお願いいたします。

〒〇四一〇八〇六

函館市美原三〇四八一六

北海道教育大学附属函館小学校内  
夕陽会本部事務局

電話 〇一三八一三四一五五二〇  
FAX 〇一三八一四七三七六

メール sekkyouka34520@gmail.com

※夕陽会ホームページからも会員登録及び登録事項の修正ができます。

○名簿記載事項の問合せにつきましては、これまでどおり本部事務局へご連絡ください。

【本部 組織部】

令和二年度

## 夕陽会運営方針並びに推進事項

## 《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

## 《推進事項》

## 1 組織強化と運営の効率化

会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。

(1) 多くの同窓生が集うための広報活動や組織拡充の取組。

(2) 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。(重点事項)

(3) 会社員・公務員会員の組織化の推進。(重点事項)

(4) 若手会員の運営への積極的な参画。

(5) 夕陽会報229、230号の発行。

## 2 人材の育成

人材の発掘と会員の資質・地位の向上を図る。

(1) 会員である道・市町村議会議員、首長部局職員、教育行政・管理職等との連携。

(2) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

(3) 地域の教育・文化の振興をリードする会員の発掘と育成。

(4) 民間企業、地方公共団体に勤める若手会員の中核となる人材の育成。(重点事項)

3 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

「つなぎ」、「集う」視点から、諸事業の再構築と財政の効率的な運用に努める。

## 4

(1) 財政基盤の中・長期的な整備策の実施。

(2) 専門部、諸業務、諸事業の見直しと再構築。(重点事項)

(3) 各支部と連携した諸会費の納入への取組。

研究・研修、文化事業の奨励

会員による個人及び協働の研究等を奨励し、明日の夕陽を担う会員等の研究・研修意欲の高揚を図る。

(1) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(2) 各支部の研究活動等の支援。

(3) 「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。

(4) 会員や母校学生による文化事業の奨励。

5 母校への支援と地域への貢献

母校の継続と発展を願い、新学科の支援を行う。

(1) 母校の就職対策関係事業及び教授対策関係事業への支援。

(2) 学生に対する同窓会意識の啓発と勧誘活動の工夫。(重点事項)

(3) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(4) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

6 夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・活用

夕陽記念館への各種記念資料等の収集と適切な保存、展示、活用を努める。

(1) 会員の作品、記念資料などの収集と会報やWebページ等での周知。

(2) 夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備。(重点事項)

(3) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放などの検討。

夕陽会本部  
事務局業務分担

## 庶務部

藤谷 毅(附属幼稚園長)

太田千佳子(附属特支副校長)

1 諸会議(含懇親会)の諸準備

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関する事

## 財政部

新谷 公康(北美原小長)

1 通常会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関する事

## 組織部

五十嵐義幸(附属小副校長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動態調査(支部別、校種別会員名簿)

3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全般に関する事

## 情宣部

櫻野 人範(知内小長)

1 「夕陽会報」の発行

2 その他、情宣に関する事

Web委員長

佐々木正幸(桔梗中長)

○ 夕陽会ホームページの充実

## 文化部

仲井 靖典(本通中長)

1 会員の文化活動に対する支援

2 学生のスポーツ・文化・芸術活動への協力・支援

3 その他、文化に関する事

## 研修部

高橋 吉隆(万年橋小長)

1 会員の地位向上対策

2 会員の個人及び共同研究への助成

3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4 その他、研修に関する事

## 厚生部

濱谷 操(桔梗中長)

1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2 記念資料及び会員の作品収集

3 夕陽記念館の整備、充実

4 その他、厚生に関する事

令和二年度 夕陽会本部役員名簿

[illegible]

## [ 6 ]

就任ご挨拶

就任にあたって



副会長 佐竹 聡

この度、函館市中学校長会を代表して夕陽会副会長という大役を仰せつかりました。夕陽会の歴史と伝統の重さを改めて実感するとともに身の引き締まる思いであります。藤川会長をはじめ役員の皆様のご指導を賜りながら微力ながら夕陽会の充実・発展に努めて参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は昭和五十九年、初任で尾札部中学校に赴任して以来、渡島支部に十五年、函館支部に二十一年お世話になっております。教師はどうあるべきか何もわからなかった若い頃、夕陽会の何たるかもわからず南茅部町支会の春の懇親会に誘われ、当時大船小学校教頭の坂口一弘先生に「若さを武器と思って何でも思いっきりやりなさい」と励まされ、冬には毎週のようにスキーに誘ってくだ

（昭和58年卒 函館市立巴中学校長）  
さり面倒をみていただきました。また、同じ職場の夕陽の先輩である千田重幸先生には、仕事上の悩みだけでなく公私にわたり熱心に指導・助言をいただき大変お世話になりました。こうして今の自分があるのも当時お世話になった皆様をはじめ、たくさんの夕陽の先輩との出会いがあったからと改めて感謝しているところなのです。

この度の就任を機に、改めて本会の目的であります「会員相互の親睦、資質の向上を図る」「教育・文化の創造と振興に寄与する」ことを念頭に夕陽会の発展に少しでも貢献することができればと考えております。どうぞ、会員の皆様のこれまでと変わらぬご指導とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

会務報告



幹事長 白川 卓  
(平成5年卒)

《一般会務》

2/8 渡島支部第2回支会長・幹事長会議、渡島支部勇退者感謝の会に藤川会長、白川幹事長が出席する。(函館)  
2/11 日高支部総会・退職者激励の会に藤川会長が出席する。(新ひだか町)

|                           |                           |                     |                    |                      |                    |                           |                               |
|---------------------------|---------------------------|---------------------|--------------------|----------------------|--------------------|---------------------------|-------------------------------|
| 2/15                      | 2/15                      | 6/5                 | 6/5                | 7/31                 | 8/2                | 8/8                       | 9/12                          |
| 函館市支部会員懇親会に藤川会長が出席する。(函館) | 函館市支部会員懇親会に藤川会長が出席する。(函館) | 夕陽記念館の清掃、整備を行う。(函館) | 第2回本部役員会を開催する。(函館) | 通信陸上夕陽会長杯の贈呈を行う。(函館) | 夕陽明日の教師塾を開催する。(函館) | 令和2年度夕陽会全国支部長会議を開催する。(函館) | 函館市支部総会・先輩を送る会に藤川会長が出席する。(江差) |

受賞(章)おめでとうございます

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲3/1)  
佐々木 勲 氏 (昭30年I卒  
石狩市花川南六の三の一九六

※函館市市民貢献賞  
高田恵美子 氏 (昭44年  
函館市宝来町一二の七

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲4/1)  
瀬戸 清 氏 (昭27年II卒  
室蘭市日の出町三の九の二三

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲8/1)  
富尾 勝 氏 (昭30年II卒  
函館市山の手二の三六の七

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲4/1)  
水上 秀美 氏 (昭29年I卒  
北斗市七重浜八の一の一

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲8/1)  
山田 富雄 氏 (昭28年II卒  
函館市大川町四の四三の七二三

※瑞宝双光章 (春の叙勲4/29)  
石澤 之則 氏 (昭36年I卒  
札幌市豊平区平岸一の一八の一の三二二

※日本政府観光局表彰  
黒沢 一雄 氏 (昭24年二卒  
七飯町大川九の二の四

※瑞宝双光章 (春の叙勲4/29)  
橋田 恭一 氏 (昭39年I卒  
函館市日吉町一の一の二二三

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲18/1)  
古谷 慶治 氏 (昭28年II卒  
七飯町桜町二の四の一

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲6/1)  
北守 昭文 氏 (昭30年II卒  
青森県七戸町花松林ノ根一七

※令和2年度道教育功績者表彰  
佐竹 聡 氏 (昭58年  
函館市立巴中学校長

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲6/1)  
小柳 喬是 氏 (昭29年II卒  
札幌市北区篠路二の三の一〇の二五

※瑞宝双光章 (高齢者叙勲6/1)  
水島 高明 氏 (昭31年I卒  
函館市本通一の一八の三の一〇二



# 各界で活躍する夕陽会員



## 半年の教員生活を振り返って

(平成32年院卒 利尻富士町立鴛泊中学校教諭)

佐藤 麻耶

私は令和二年に北海道教育大学大学院を修了しました。今年の四月より利尻富士町立鴛泊中学校に勤務しています。大学で四年、大学院で二年、教員になることを目指して学んできました。六年を過ごした函館の地を離れることは寂しい気持ちもありましたが、赴任に伴い初めて訪れた宗谷地方・利尻島は豊かな自然と美しい海に囲まれており、この利尻島で教員生活を始められたことをとても嬉しく感じています。

この半年を振り返ると、コロナウィルスの流行に伴い四月、五月の臨時休業や、在宅勤務日が増えたり、学校行事も例年よりも規模を縮小したり、中止になることがありました。休校中はオンライン授業を行わなければいけなく、準備や撮影が大変に感じることがありました。しかし、この大変な時期はチャンスであるのではないかと考えるようにしました。オンラインで授業を配信するため、ビデオで自分の授業を行っている姿を撮影します。それを編集するために見返すことによって、自身の授業の振り返りができます。自分が構成した授業で本当に生徒が理解できる

のか、説明はわかりやすくできているか、声の大きさは適切か、目標とまとめは一致しているのか、など多くの点を振り返ることができる良い機会でした。また、配信授業は他の先生方も見ることができ、アドバイスを頂くこともありました。私も、他教科の授業を見ることができたので、良いアイデアを積極的に授業に取り入れることもできました。このように、自身の授業を振り返ることができ、更には、他の先輩教員の授業をじっくり見ることができ、それは、オンライン授業ならではのことで感じました。日常とは異なる環境での学校生活で不便に感じることもや、生徒と対面でコミュニケーションが取れず、寂しく感じることもありましたが、新たな挑戦がたくさんあり、良い学びの機会となりました。

まだまだ未熟者ではありますが、研鑽を積み、指導力を向上させ、生徒に還元できるように努めていきます。夕陽会の先輩の皆様には今後ともお世話になることと思いますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 地域を、人を支える仕事

工藤 奈央

(平成22年卒 DCMホームマック株式会社 管理部 採用・教育課)

北海道教育大学函館校を卒業し、DCMホームマック株式会社へ入社して十年。入社後は四年間の店舗勤務を経験し、現在の部署へ配属され六年が経ちます。

現在の仕事内容は、主に面接を含む採用業務全般の他、社内報作成、社員の資格取得や教育・研修に関わる業務となります。

店舗運営をする小売業の会社というのと店で働くイメージが強いと思いますが、実際はお客さまの目に触れないところで店舗をサポートする多くの専門的な仕事が存在します。その中で、次世代の会社を担う学生の皆さんとの最初の接点が我々採用担当の仕事です。当社の選考では、学生の皆さんに企業理解を深めてもらうだけでなく、我々も学生のため一人一人のキャリアをしっかりと見据え、一方通行ではなく相互に理解し合うことを大切にしています。就職という人生の大きな決断のタイミングに、企業側の立場で社会人の先輩として学生の皆さんと関わるため、大きな責任を感じる分やりがいを持って業務に取り組んでいます。

私にとって大学四年間の学び、部

活動やアルバイト経験、そこで培った人間関係はかけがえのないものです。入学当初は中学校教諭の道も視野に入れていましたが、専攻する福祉の分野に興味を深まり民間へシフト。しかし、実習後に改めて将来を考えた結果、就職活動では小売を第一志望に動きました。

入社してからは、東日本大震災や北海道胆振東部地震、新型コロナウイルス感染症などが起こり、有事の際に企業としての在り方を問われる場面が多々ありましたが、同時に世の中にとって必要不可欠な仕事に携わっているという自負が芽生えました。

学生の皆さんの考え方や価値観は、在学当時の私のように様々な経験や社会事情により大きく変化する上、個々にも違います。そのことから一人一人と真摯に向き合う大切さは日々痛感します。これからの世の中の変化に対応し続けるこの会社で、一人でも多くのお客さま、そして学生の皆さんのお役に立てるよう今後も邁進していく所存です。

最後に、異業種で活躍される皆様に知っていただく機会をくださり感謝申し上げます。



# 北海道教育大学附属函館中学校



自主 明朗 知・徳

## 夕陽会本部事務局・附属四校園紹介(2)



個性いきいき愉快な学校

北海道教育大学附属函館中学校は、北海道第二師範学校における教育実習・教育研究フィールドを担い、昭和二十二年四月に開校しました。以来七十余年、国の教育政策を先導的に推進する拠点校として、また地域の教育課題を解決するモデル校及び時代の最先端を開拓する教育研究を使命に、日々の教育・研究活動に取り組んできました。特に近年では、時代の最先端を開拓する教育研究として、新たな時代『Society5.0』を創る教育の展開をテーマとした「ICTを活用した教育実践が全国的にも注目され

ています。また、校訓「自主・明朗・知徳」に基づき、子どもたちの社会的成長を支えています。

時代の最先端を行く



Google for Education

本校では、平成二十四年より、安価なタブレット端末四十五台の試験的な導入から一貫して「一人一台のPC（端末）環境」にこだわり、教育環境の整備や実践に取り組んできました。現在は、「他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒の育成」、「次世代の教育情報化推進に係る情報教育の体系的な推進」や「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究（遠隔教育システムの活用実証）」を柱とし、グーグル提供の極めて低コストに導入できるクラウドシステムの教育活用と、BYODによる端末整備などの実践研究を進めています。このことは、特定の条件が

整った学校のみが実践できるものではなく、全国のどの学校においても実践できるものとして進めているものです。この最先端の取組を通して、地域そして全国の学校における整備コストの問題や情報モラルの醸成等、ICT環境整備・情報活用能力の育成における様々な課題の解決に貢献できるものと考えています。

夢の実現と学ぶ意義

今の子どもたちが築く、次世代の新たな社会は、厳しい挑戦の時代と予想されています。一方彼らには、従来の常識や価値観にとらわれない考え方や行動力によって、世界を変えさせる可能性を秘めているといわれています。

来るべき新しい時代に必要とされる資質・能力の育成において、子どもたちの可能性を伸ばし、主体的に「夢の実現」を目指す新たな教育が求められています。



新しい時代に向けた教育実践を積極的に取り組み、地域の教育課題の解決に貢献する附属学校の使命を果たしていきたいと考えています。

地域に貢献する附属

本校は、伝統である「研究と実践」を核とし、学校経営の理念のひとつとして『教育大学附属学校として、国の先端的研究に挑み、地域教育の課題に応じた教員養成・研修機関としての機能を高め、地域の教育振興に貢献する学校』を掲げています。

現在、国の教育政策と「GIGAスクール構想の実現が進められており、全国の教育委員会や学校、研究団体等から本校の実践に関するお問い合わせや視察の要請、研修講師の派遣依頼をいただいています。このように本校は、実践や研究を通じて、地域に貢献できる附属学校でありたいと願っています。山積する教育課題の解決に向けて、地域とともにその解決に向けて取り組む附属函館中にご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本校の様子や研修・実践等については、フェイスブックなどでも発信しています。よろしければご覧いただけます。ありがとうございます。



# 北海道教育大学附属特別支援学校

北海道教育大学附属特別支援学校です。本校は、夕陽会事務局の庶務部を担当しております。四十名の職員中、会員は十七名です。北海道教育大学の附属学校の中で唯一の特別支援学校ということで、これまで母校の特別支援学校教諭免許取得を目指す多くの学生の教育実習や、研究の場として活用していただいております。

本校は、知的障がいのある小学部から高等部六十名の児童生徒が学ぶ学校です。

「学ぶことを楽しみ 次の学びに意欲がもてる子どもを育てる」を学校教育目標に掲げ、卒業しても大人になっても「もっと学びたい」「もっとやりたい」と自ら学び続ける大人になってほしい、と願いながら学校教育を展開しています。

## ☆「もっと！」を育てるために

もつとを育てるためには、友達や周囲の大人など他者とのかわりが不可欠です。障がいの特性から人とのかわりが苦手の児童生徒が多く在籍する本校ですが、発



発達段階にあわせた人とのかわり

達段階に合わせ、人への興味・関心から他者評価に至るまで、教師が仕掛けた意図的なかわりを通じて育てようとしています。

ものや遊びを通して大人とかわることができるようになる小学部、友達の意見や取組を参考にする中学部、自分や友達の良さを見付ける高等部、と授業内容でかわりの場面を設定しながら、時間をかけて育てていきます。

校内だけではなく、他校との交流の中でもその場面を設定しながら、他者とのかわりに関する力を育てているところ

## ☆ まずは地域に知っていただくこと

児童生徒が社会自立する場となる地域の方々に、本校で学ぶ児童生徒の実態や教育内容について知っていただくことも重要な学校の使命と考えています。

附属特別支援学校がある美原地区は、開校当初から住宅が多かったわけではありませんでした。

現在は多くの住宅が立ち並び、近隣の北美原小や桔梗小は市内でも一番大きな学校になっています。多くの地域住民が学校の近辺で生活するように



附属函館小との交流(小)



群馬大附属との交流(中)



大野農業高校との交流(高)

なった今、地域の方々に学校を知っていただくことができるようになること、子どもたちの学んでいる姿を知っていただくことは、共生社会実現の第一歩と考えています。

本校では、昨年、文科省が行う

「こころのバリアフリー推進事業」を活用し、道南出身のパラリンピアンをお招きし、附属函館小や北美原小の高学年児童とその保護者にも参加してもらい、障がい理解のための講演会を実施しました。

## ☆ 地域と共に子どもを育てるために

さらに共生社会実現のための取組として、本校では大学で行う「キャンパス活性化リノベーション事業」に取り組みしました。学校独自で集める百万円と大学の予算を合わせた一千万円の工事を行うためには、本校独自で百万円の寄附をお願いしなければなりません。初めての取組でしたが、寄附をお願いする期間、多くの地域の方々に学校の話を聞いていただき、応援をしていただきました。念願であった図書室ができたことが新聞に取り上げられると「図書室で使って」と家庭にある図書を寄附してくださる方もいま



人とのつながりも期待できる図書室が完成



高等部作業の製品販売方法も模索中



キャンパス活性化リノベーション事業に係る工事が完了しました！

キャンパス活性化リノベーション事業では多くの方にご協力いただきました

した。学校への期待の大きさに驚きました。今後、図書室での読み聞かせや本の閲覧などを地域の方にも案内できるように整備をすすめています。また、高等部で取り組んだ作業製品の販売なども地域に広く知っていただくことも検討中です。

学校や家庭だけではなく、いずれ児童生徒が成長し自立する地域に、子どもの頃から育てていただくために、学校を地域に開かれたものにしていくことが、現在の本校の目標となっています。

人とかかわること、コミュニケーション、働くことなど、地域の方を必要とする学びもたくさんあります。今後とも本校の教育活動推進のため、ご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



## 特別支援学校支部だより

特別支援学校支部長 竹内 哲

(昭和61年卒 北海道千歳高等学校校長)

本支部の歴史は昭和五十四年の養護学校の義務化がされた二年後に「札幌地区特殊教育諸学校夕陽会連絡会」が結成されたのが始まりです。その後「北海道特殊教育夕陽会」が発足しました。平成七年に「夕陽会特殊教育諸学校支部」に発展し、平成八年に「夕陽会特殊教育専門部会」として本部会則の細則第四条に位置づけられました。平成十二年六月に本部総会をもって正式に「特殊教育諸学校支部」として承認され、平成二十年から「特別支援学校支部」と改名され現在に至っています。

この間、教育指導監、特別支援教育課長、道立特別支援(特殊)教育センター所長、北海道特別支援学校長会会長等の要職に就かれた方も多く輩出するなど、特別支援(特殊)教育「夕陽会」と称された活躍がありました。北海道教育における特別支援(特殊)教育の充実・発展があったのは夕陽会の先達の皆様の御活躍があったからにほかなりません。

このような経緯を経ながら、本支部は本年設立二十周年を迎えました。それを記念した総会、研修会及び懇親会が札幌にて令和二年一月に開催

されました。当日は、藤川会長にもお越しいただき、全道から多くのOBと現役の会員が参集しました。研修会では「これからの特別支援学校支部の役割を考える」と題した意見交流がなされました。若い世代からベテラン、OBまで共に語る場として貴重な時間を持つことができました。

(平成の時代には障がい者(児)に対する法律や施策が次々と打ち出され、それに伴う変動は学校現場にも大きな影響をもたらしてきました。「共生社会の実現」「インクルーシブ教育システムの構築」は社会全体の目標であり、昭和の時代から我々が抱き続けた願いでもあります。この実現に向けて、現在も特別支援学校で校長及び副校長、教頭そして教諭として、本庁・局及び特別支援教育センターの職員という第一線で多数の会員が活躍しています。特別支援学校等に勤務する同窓生が減少している現状において、現在の会員が奮起している姿には感謝するとともに支部としてさらなるエールを送り続け、本支部の活動が会員のこれから

の活躍につながるものになるように努めて参ります。



## 高校支部だより

――将来の支部の在り方を考える――

高校支部長 渡辺 祐司

(昭和58年卒 北海道札幌手稲高等学校校長)

高校支部は平成十二年に設置されました。会員は道南地区のみならず全道各地で勤務していることから、毎年一月に札幌で開催されている「北海道高等学校教育研究会」に合わせて設定し親睦を深めた「高校部会」を経て現在に至っています。今年度は校長・教頭等の役員十四名のほか、OB・現役会員あわせて五十五名の計六十九名で構成されています。毎年二回、函館と札幌で支部会

員が顔を合わせる会合を設けており、昨年九月には函館で懇親会を付した総会・研修会を、今年一月には札幌で二回目の懇親会を行い、これまで同様相互の学びと絆を大切にしてきました。

近年は、将来の高校支部の在り方が大きな課題です。同窓の高校教員は広く全道各地に在るため、日常的な交流が難しくそれが組織拡大のネックにもなっています。さらに同窓生の現況把握も人づてに頼るところが大きく、管理職はともかく一般教員の所属情報は十分に確認できていません。そのため、年に二回の会合でさえ参加者は管理職中心になりがちで、同窓生の中にはその存在は知っていても自分たちには関係なく管理職等のための集まりと捉えている人も多いようです。

今後は高校支部の新会員(新規学

卒者)は見込みづらいことから、現職の同窓生に高校支部の存在及び活動を周知し、加入を働きかける方法について、これまで以上に知恵を絞る必要があります。全道の高校には創意工夫をこらして魅力ある授業を行っている同窓生がおり、その貴重な実践の情報を共有することは大きな財産になります。そのためには高校支部のネットワークを一層組織的にかつきめ細かく抜けていくことが不可欠であり、例えば支部HPを開設して日常的に情報の提供や交流を行ったり、インターネット環境を活用してweb会議を行ったりすることなどを前向きに検討し、時代の流れに即した対応が必要になると考えます。かつて、「夕陽魂」をもって北海道の高等学校教育の発展・充実に寄与する人材を育成するためにこの組織を立ち上げ、力強く活動を続けてこられた諸先輩の想いをつなぐことが現職の私たちの使命であり当面の目標です。

今年度は、世界的なコロナ禍で私たちは不自由な生活を強いられ、予定していた九月の支部総会・研修会

は実施できませんでしたが、会員が一堂に会することは理想ですが、それが叶わないとしても会員にとって有益な場を持つ工夫をすることが急務であると改めて感じています。

支部だより

前納会費納入会員名簿追加分

(敬称略 令和2年9月30日現在)

夕陽会員計報

|                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 松森 久氏 昭30Ⅱ 2・1・4 逝去     | 明石 木実氏 昭53 2・5・13 逝去      |
| 函館市青柳町9の2 妻 英子氏         | 函館市鍛冶2の20の22 妹 横谷満美氏      |
| 北原 正武氏 昭30Ⅰ 2・1・28 逝去   | 坂野 功氏 昭31Ⅰ 2・6・2 逝去       |
| 札幌市豊平区西岡2の9の4の7         | 函館市桔梗町365の6 妻 幸世氏         |
| 小島 泰雄氏 昭26Ⅲ 3E・1・22 逝去  | 安川 和博氏 昭31Ⅱ 2・6・17 逝去     |
| 東京都稲城市若葉台3の1の1 長女 知香子氏  | 函館市亀田港町48の1 長女 栗澤珠実氏      |
| 本堂 潤悦氏 昭27Ⅱ 1・10・6 逝去   | 祝田 松利氏 昭25Ⅱ 2・6・22 逝去     |
| 函館市住吉町4の1               | 乙部町元和60 妻 玉子氏             |
| 渡辺 康孝氏 昭30Ⅱ 1・11・2 逝去   | 藤原 昭雄氏 昭25Ⅱ 2・6・22 逝去     |
| 函館市西旭岡町2の39の1 妻 恵美子氏    | 札幌市南区澄川5の9の5の6 妻 ミキ氏      |
| 漆畑 孝夫氏 昭31Ⅱ 1・15・6 逝去   | 鈴木 秀明氏 昭46 2・6・24 逝去      |
| 函館市亀田港町19の7 妻 幸子氏       | 函館市赤川1の27の14 妻 久二子氏       |
| 高橋 喜子氏 昭50 2・2・20 逝去    | 今 幸植氏 昭35Ⅰ 2・7・3 逝去       |
| 函館市梁川町4の1の303           | 函館市駒場町3の18の301 妻 幸子氏      |
| 柴田 英二氏 昭47 2・2・23 逝去    | 黒沢 隆隆氏 昭28Ⅰ 2・7・7 逝去      |
| 函館市山の手2の23の29           | 札幌市白石区菊水元町4の1の3の14 妻 英子氏  |
| 寺谷島七郎氏 昭32Ⅱ 2・2・29 逝去   | 水上 秀美氏 昭29Ⅰ 2・7・13 逝去     |
| 函館市日吉町4の29の14 妻 則子氏     | 北斗市七重浜8丁目11の2 妻 沙恵子氏      |
| 畑野 順子氏 昭28Ⅱ 2・1・2 逝去    | 福田 好之氏 昭35Ⅰ 2・7・23 逝去     |
| 函館市湯川町2の33の6 長男 俊光氏     | 函館市人見町4の6 妻 あつ子氏          |
| 神田 鉦三氏 昭18Ⅱ 1・5・17 逝去   | 竹内美恵子氏 昭24Ⅱ 2・8・5 逝去      |
| 札幌市西区西野4の3の6の10 長女 美知子氏 | 函館市柳町1の2 次男 宏幸氏           |
| 濱田 鎌太郎氏 昭34Ⅱ 2・2・2 逝去   | 小泉 隆儀氏 昭36Ⅰ 2・8・16 逝去     |
| 七飯町大川5の10の8 妻 綾子氏       | 札幌市豊平区月寒東2の19の10の10 妻 範子氏 |
| 石井 久氏 昭33Ⅱ 2・4・2 逝去     | 池上 信廣氏 昭37Ⅰ 2・8・16 逝去     |
| 函館市上野町19の8 妻 恵津子氏       | 函館市住吉町17の18 妻 和子氏         |
| 工藤 恒夫氏 昭33Ⅱ 2・4・17 逝去   | 渡邊喜美男氏 昭28Ⅱ 2・9・5 逝去      |
| 函館市人見町11の18 妻 洋子氏       | 北斗市当別4の6の30 妻 こう子氏        |
| 太田 タイ氏 昭24Ⅱ 2・5・15 逝去   | 寺井 孚氏 昭38Ⅰ 2・10・16 逝去     |
| 函館市西桔梗町745の5 夫 雄一氏      | 函館市弁天町8の5 妻 久仁子氏          |
| 三上 力也氏 昭33Ⅰ 2・5・25 逝去   |                           |
| 函館市本通1の4の37 長男 卓也氏      |                           |

(令和2年10月20日現在)

令和3年度 北海道教育大学夕陽会  
本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

- ◆日時 令和3年6月26日(土)  
◆会場 ホテル函館ロイヤル  
(〒040-0034 函館市大森町16番9号 ☎0138-26-8181)
- ・令和3年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
  - ・令和3年度 総 会 16時～17時
  - ・令和3年度 大 懇 親 会 17時30分～20時

編集後記

◆「夕陽会の時計を止めない。」その思いで会報第二二九号をお届けいたします。発行が遅れご心配、ご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。今号も執筆された会員の夕陽会に対する熱い思いにあふれた玉稿を賜りました。心より感謝とお礼を申し上げます。

◆新型コロナウイルス感染症の影響が紙面に表れているのは会務報告です。対面での活動が制限され例年の五分の程度となっています。

◆各学校では「新しい生活様式」に基づき、子供たちが安心・安全に過ごすための細やかな配慮が求められています。会社員・公務員部会の皆様は、テレワークや在宅勤務など、働き方が大きく変化していることで、夕陽会も絆の結び方が変わっていくような心配です。

◆とは言いつつも、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、対面での活動の総会・大懇親会を開催できますことを願う私です。

(情宣部長 檜野 人範 記 昭60卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号  
北海道教育大学附属函館小学校内  
夕陽会本部事務局  
電話番号(0138) 46-2223  
夕陽会専用(0138) 34-5520  
FAX番号(0138) 47-7376  
e-mail: sekiyoukai34520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)